

FLOSS, Debian and "YOU" (updated)



@ Kansai Open Source 2008

Hideki Yamane (Debian JP Project, Auditor)
<henrich @ debian.or.jp>

<http://wiki.debian.org/HidekiYamane>

「あなた」と オープンソース／フリーソフトウェア、 そして「Debian」 (ver. k-of2008)

@ 関西オープンソース 2008

やまねひでき (Debian JP Project 2007-2008年度監事)
<henrich @ debian.or.jp>

<http://wiki.debian.org/HidekiYamane>

ご来場ありがとうございます

- ✓ 与太話セッションへようこそ
- ✓ 技術的要素はほとんどなし。
- ✓ 「あ、なんか間違えたかなー」
と思った方
 - ✓ 悪いことは言わないのもっと為になるのを
受講してください ;-)

今回のお話について

- ✓ 気楽に話をするセッションです :-)
- ✓ あくまでも私から見た視点です。
「こんな見方があるんだよ」と思ってください
- ✓ 質問は後でまとめてお願いします。
 - ✓ 最初にお名前をお願いします
 - ✓ 周りの人に聞こえるようにハッキリ発言ください
 - ✓ オフレコな話の場合は皆さん心の中にしまっておいてあげてください :-)

自己紹介

- やまねひでき
 - Samba
 - Debian
 - Linux
 - Ubuntu



註：イメージは実際の商品と異なることがあります

Debian-Ubuntu


- Debian ユーザ／パッケージメンテナ
 - フォント系パッケージ
 - Debian JP Project (www.debian.or.jp)
 - www.jp.backports.org
 - 「Debian でハッピー」事例を収集中
- Ubuntu Japanese Team
 - ubuntu mirror サーバの一つの admin
 - Debian-Ubuntu の日本でのHubの一人になりたい

本日のアジェンダ

- ✓ オープンソースソフトウェア(OSS)
 - ✓ 歴史と成り立ち
 - ✓ ライセンスと開発形態
- ✓ 利用者/開発者にとってのFLOSS
- ✓ FLOSSの社会的意義

早速質問の時間

- 「オープンソース」という言葉を知ってる人？
- 「フリーソフトウェア」
- 「FLOSS」 (Free/Libre Open Source Software)
- 「Debian」



歴史と成り立ち ～ Free Software, DFSG から OSD へ

Who is he?



リチャード M ストールマン (1953-)

http://en.wikipedia.org/wiki/Image:Portrait_-_Denmark_DTU_2007-3-31.jpg

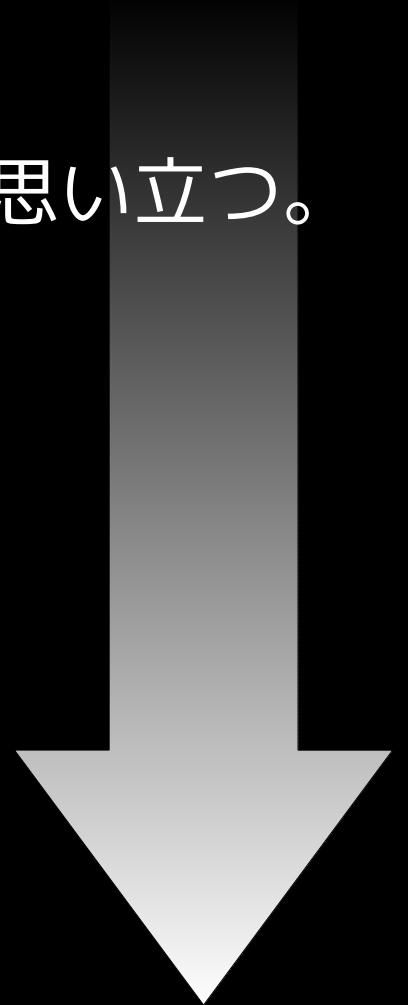
“Free Software”という考え

- ✓ 「ソフトウェアは自由であるべきだ！」
 - ✓ 自由に利用したい
 - ✓ 自由に改変したい
 - ✓ 自由に配布したい
 - ✓ 一部の人からすれば、どう考えても Crazy
 - ✓ …しかしこれがすべての始まり

「フリーソフトウェア」の始まり

GNU / Free Software の始まり

- ✓ 1983 ストールマン、GNUプロジェクトを思い立つ。
- ✓ 1984 GNUマニフェスト



GNU マニフェスト

「…プログラムの一部または全てを複写することは、プログラマにとって呼吸するのと同じくらい自然なことであり生産的なものである。だから、プログラムはフリーであるべきである。…」

- ✓ 一部のみ抜粋。
- ✓ 非常に示唆に富んでいる文章。
- ✓ <http://www.gnu.org/japan/manifesto-1993j-plain.html>で読めます

すべては 「フリーソフトウェア」から

GNU / Free Software のはじまり

- ✓ 1983 ストールマン、GNUプロジェクトを思い立つ。
- ✓ 1984 GNUマニフェスト
- ✓ 1991 GNU General Public License2 (GPL2)



GNUプロジェクトによる 代表的なフリーソフトウェア

- ✓ GIMP, GTK+, GNOME (1997年開始)
- ✓ gettext
- ✓ GnuPG
- ✓ gcc, gdb, coreutils
- ✓ Emacs
- ✓ wget
- ✓ grub, glibc

インターネットと Linux

- ✓ 1991 年大学生 Linus Torvals がnews group に Linux を投稿
 - ✓ 寄ってたかって皆が開発
 - ✓ ライセンスが厳しすぎる Minix への不満
 - ✓ GNU Hurd は未だ完成していない
 - ✓ *BSD は AT&T との裁判係争真っ最中
 - ✓ 386BSD はそもそも改善しようにも動きがない…
- ✓ 爆発的發展へ

Debian の始まり

- 各種Linux ディストリビューションが出回っていた
 - SLS とか、Yggdrasil など
 - …がひどいもの多し。
 - 1993 大学生が切れた
 - 「俺が作る！」 by Ian Murdock
 - Debian Project の始まり
 - 最初のところは Free Software Foundation のお世話になった
 - やがて独立

Debian フリーソフトウェアガイドライン の成立

- 1997 年 6 月成立
- Debian が考える
「フリーなソフトウェアとは何か？」の定義
 - GNU (Free Software Foundation) とは
また違う考え方

よくある誤解

- 「Debian **GNU**/Linux だから Debian は GPL なソフトだけで構成されているんだよ！」

-ちゃんねん

Debian フリーソフトウェアガイドライン

http://www.debian.org/social_contract#guidelines

1. 自由な再配布
2. ソースコードの入手
3. 派生ソフトウェア
4. 原作者によるソースコードの整合性維持
5. すべての個人、団体の平等
6. 目標分野の平等
7. ライセンスの配布
8. ライセンスは Debian に限定されない
9. ライセンスは他のソフトウェアを侵害しない
10. フリーなライセンスの例

DFSG?

- GNU のフリーソフトウェア以外 **も同等に**
「フリーソフトウェア」と考える
 - ある意味現実との妥協の産物でもあり
 - でも **「選択の自由」** も大切だよ

「オープンソースソフトウェア」 の始まり

- 1998年2月3日 Netscape のコードを公開するに当たって名づけられた
 - その結果 = **Mozilla (Firefox)**
 - フリーソフトウェアと同様の性質を持つが、その名前や運動と関連付けられるのをビジネス的にマイナスと考えたため生み出された「マーケティング」用語
 - <http://opensource.org/history>

オープンソースの定義 (OSD)

1. 自由な再頒布ができること
2. ソースコードを入手できること
3. 派生物が存在でき、派生物に同じライセンスを適用できること
4. 差分情報の配布を認める場合には、同一性の保持を要求してもかまわない
5. 個人やグループを差別しないこと
6. 適用領域に基づいた差別をしないこと
7. 再配布において追加ライセンスを必要としないこと
8. 特定製品に依存しないこと
9. 同じ媒体で配布される他のソフトウェアを制限しないこと
10. 技術的な中立を保っていること

オープンソースの定義≡DFSG

「Debian」

という単語を

取っ払っただけ

「フリーソフトウェア」じゃダメだったの？

- 「Fortune 500 企業をターゲットに」
 - Linuxを中核に切り込もう！
 - フリーソフトウェアだと「理念」が全面に出過ぎ？
- 繰り返すが「マーケティング」用語
 - 書籍「オープンソースソフトウェア」
 - 彼らはいかにしてビジネススタンダードになったのか- 第15章
 - http://www.oreilly.co.jp/B00K/osp/OpenSource_Web_Version/chapter15/chapter15.html

歴史まとめ

- 1983 ストールマンGNUプロジェクトを思い立つ
- 1984 GNUマニフェスト
- 1991 GNU GPL2成立、Linux 開発開始
- 1993 Debian プロジェクト開始
- 1997 Debian フリーソフトウェアガイドライン
- 1998 オープンソースの定義
- 2008 現在



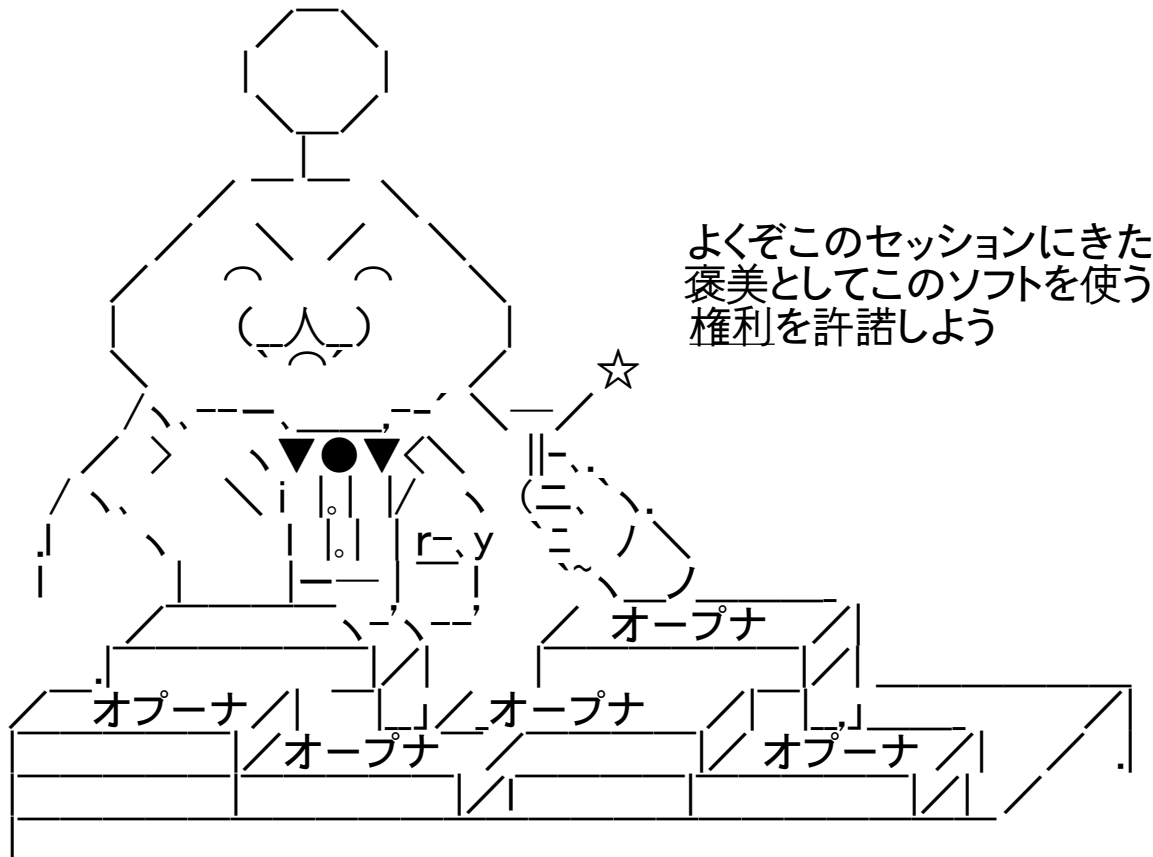
The background features a stylized illustration of blue waves at the bottom, transitioning into a white area with a red spiral line in the upper right corner.

ライセンスと開発形態

改めて
「ライセンス」
という考え方

「ライセンス」とは
権利を持つ者が他者に
に対して限定的許可を
与えること。

こういうこと



改めて オープンソースの定義 (OSD)

1. 自由な再頒布ができること
2. ソースコードを入手できること
3. 派生物が存在でき、派生物に同じライセンスを適用できること
4. 差分情報の配布を認める場合には、同一性の保持を要求してもかまわない
5. 個人やグループを差別しないこと
6. 適用領域に基づいた差別をしないこと
7. 再配布において追加ライセンスを必要としないこと
8. 特定製品に依存しないこと
9. 同じ媒体で配布される他のソフトウェアを制限しないこと
10. 技術的な中立を保っていること

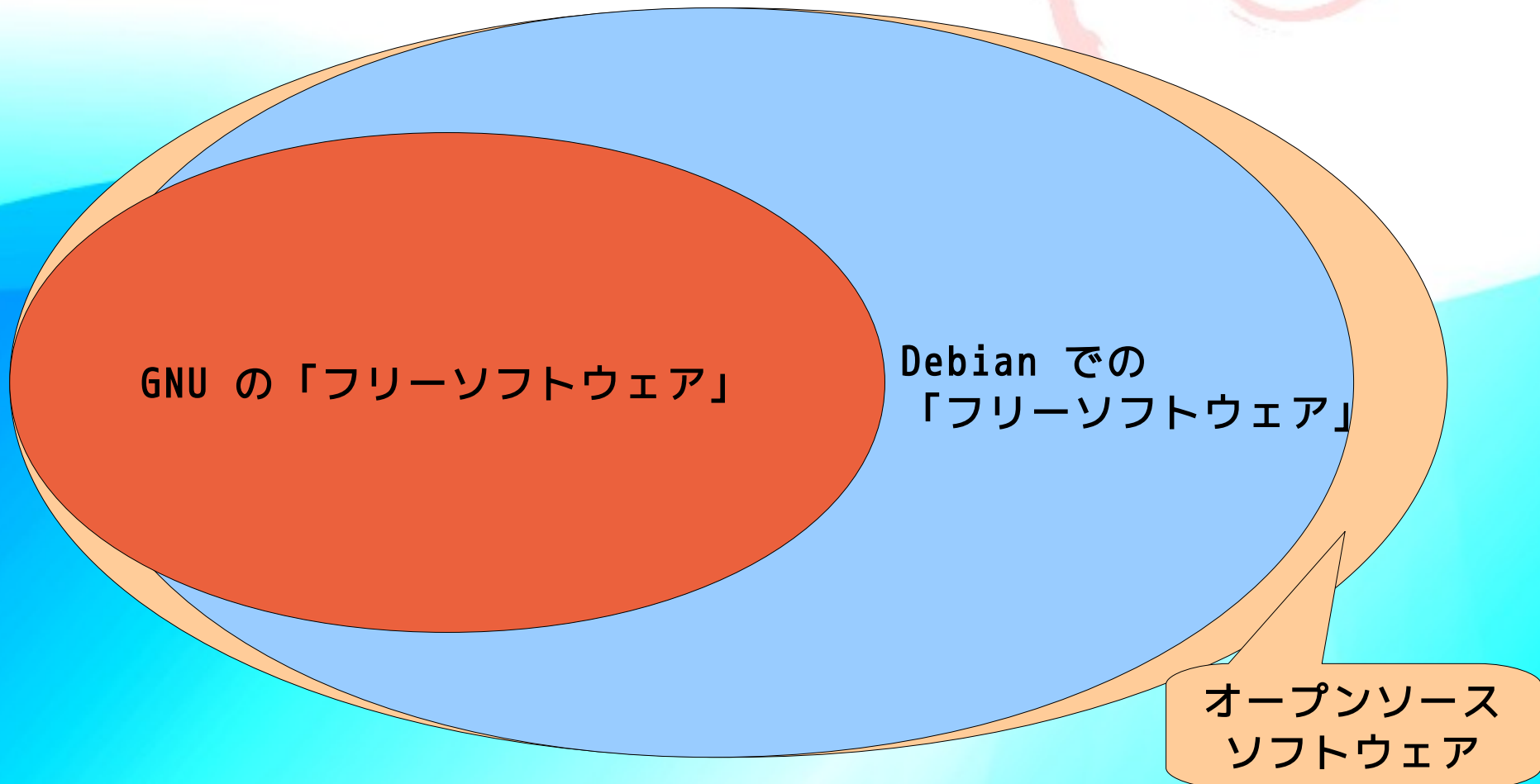
OSSなライセンス

- OSD 準拠であれば「OSSライセンス」と言ってもよい
 - GNU GPL2/3, LGPL2.1, 修正 BSD, Artistic License 2.0, MIT, X, Apache2.0, etc...
 - 最近 OSI がグダグダなので変なものも混じりそうだけど...

OSSなライセンス

- Debian 的「フリーソフトウェア」(DFSG-Free) に合致すれば間違いなくOSSなライセンス
 - が、Debian 的にはよりフリーかどうかを常に自問自答している。(例：GFDL)
 - Creative Commons 3.0 は、その策定にあたって、Debian プロジェクトと協業した。CC 3.0 BY-SA は DFSG-Free
 - 「小夏フォント」パッケージ作って Debian に入れたよ！

GNU のフリーソフトウェア オープンソースソフトウェア Debian フリーソフトウェア



ライセンスの新規作成は 面倒くさい

- 法律の専門家でない人が揚げ足を取られないライセンスを作るのは難しい。
- 複数のソフトウェアを組み合わせて利用する場合、独自ライセンスが乱立すると他のソフトウェアとの整合性をとるのにもの凄く手間がかかる。

正直意味わかんないよね



ライセンス＝プロトコル

- Q: ソフトウェアを公開する場合のライセンスは何か良い？
- A: OSD の**代表的**ライセンスを使うのが吉
 - 既存ライセンスではダメな場合に独自ライセンスを模索する
 - 既存ライセンスだと理解が早い
例：「このソフトのライセンスは？」 「GPL2」
 - プロトコルを新たに実装するとバグが…
 - FLOSSライセンスは広い分野で数年に渡って叩かれ続けたライブラリのようなもの

なんで「代表的」？

- なんか政治層みたいなのが絡んでグダグダになってきているという噂も…
 - OSI が認定していれば大丈夫！は過去、かも。
 - DFSG-Free なら大丈夫ですね :-)

FLOSSライセンスは 法的に本当に有効なのか？

- 日本で実際の裁判の争点として争われた事が無いので本当のところは分かりません。
 - が、それならば既存商用ソフトウェアのライセンスも同様なことをお忘れ無く :-)

アメリカですが、オープンソースライセンス違反についての裁判があり、Artistic Licenseの有効性が妥当であると判断されたので、恐らく日本でも有効と認定されると思います。

オープンソース・ライセンス違反は著作権侵害—裁判所が画期的判断

<http://www.computerworld.jp/topics/osst/118750.html>

huge and important news: free licenses upheld (Lessig Blog)

http://lessig.org/blog/2008/08/huge_and_important_news_free_l.html

そして、
開発形態

開発形態

- 大抵は「コミュニティによる分散開発」
 - 公開して地理的にも会社的にも業務的にも全然違う人らが幾人かで色々いじくり回す
 - MLに流したりblogとかに書いておくと、何時の間にか…
 - 英語とかで書いておくとさらに色々と…
 - ミーティングもチャット、意思決定も多くはメール
 - たまにカンファレンス等で顔を合わせる

開発形態

- 業務開発とは真逆

- タコ部屋で折りたたみの机と椅子並べて、協力会社の名前もよく分からない人と開発作業…orz

- 註：そんな例もあるよ、というだけです。

- 本当にそんな例**も**ある、という**だけ**、です。

最低限必要な環境

- ソースが公開されてる
 - SVN, git などで容易に参照可能な repository があると GOOD
- それなりに情報が集まってるページ
 - 公式ウェブサイトがあるといいよね
- メーリングリストなどの過去の議論が容易に追えるアーカイブ
 - なんでそうなのかわかるとアプローチも違うよね

最低限必要な環境

- sourceforge.jp オススメ
 - SVN あるし
 - Wiki も使えるし
 - メーリングリストもあるし
 - Debian な人が開発運用やってるし

ちょっと似ている開発形態

- 「オフショア開発」
 - アメリカ → インド
 - 日本 → 中国、ベトナム
- オフショアって失敗例ばかり聞くんですが…
 - 仕事でやるのと「自発的にやる」のは大違い
 - 『よいソフトは全て、開発者の個人的な悩み解決から始まる』 by エリック・レイモンド
 - 「文化のすり合わせ」が出来てないからミスコミュニケーションが多い

大抵失敗する オープンソース開発方法

- 「会社のプロダクトをオープンソースに」
 - ソースコードを公開したら皆使う？
 - オープンソース幻想（ファンタジー）
- 必要なのは「興味を引く」内容と惹きつけ方
 - インターネットは「アテンションエコノミー」
 - 身内＝会社の人だけのコミュニティは衰退する
 - コミュニケーションがオンライン外だけで行われると、自然と人の足は遠のく

大抵失敗する オープンソース開発方法

- 「コミュニティを作る」
 - コミュニティ幻想（ファンタジー）
 - 自発的に出来てくるものであって、マーケティング先行でうまくいくことはほとんどない（空回り）
 - 情報を公開して素地を作ること自体は重要
 - 過度のガバナンスは萎縮をもたらす
 - 「こうあるべきだ！」は危険

大抵失敗する オープンソース開発方法


- 「一人でやる」症候群
 - 波があるので何時の間にか開発停滞…。
 - Fml... ;-(
 - 最初から確信犯的「やり逃げ」もあります :-)

ライセンスと開発形態まとめ

- OSSライセンスは OSD という形でまとめられているので、その代表的なものを使うのが良い
 - 「フリー」はGNU/Debian/OSDで若干解釈が違う
 - ライセンスはプロトコル！
 - 既存ライセンスはいろんな環境で叩かれつづけたライブラリ
- 開発はコミュニティによる分散自発的開発
 - ソースが公開されているだけではダメ
 - コミュニティが生まれる「土壌」を作る

本日のアジェンダ

- オープンソースソフトウェア(OSS)
 - 歴史と成り立ち
 - ライセンスと開発形態
- 利用者/開発者にとってのFLOSS
- FLOSSの社会的意義



利用者／開発者にとってのFLOSS

昨日、何食べましたか？

今日の服は？

ご趣味は？

You CAN choose it,
because
You are "FREE"

FLOSS の利点

- 「自由」の利点を享受できる
 - 自由に入手できる（参考にできる）
 - 改変もできる
 - 必要であれば再配布もできる
 - もしかしたら自分の欲しい機能を実装する人が現れるかも…
 - ソフト自体は無償で入手可能でコストメリットもある
 - ベンダーロックイン／パクスアメリカナ回避（西ヨーロッパ、南米圏で顕著）

大いなる誤解

- FLOSS は商用ライセンスものを排除している
 - ちゃうねん「配布や利用とかに制限がある」から配布できないのよ。

大いなる誤解

- 「利用者に優しくない」
 - 別に自分で持ってきて使えばええやん
- 「面倒。そういう思想とかがあるからダメなんだ！」
 - なにゆーてん…（溜息）

大いなる誤解

- 既存の膨大な数のソフトウェアについて
“誰か”が「自由に使えるようにするコスト」
を既に払ってくれていることを理解できていない
 - 制限があるものを配布することのリスク

新しい流れが生まれてくる 「自由な」 土壌

- Debianから生まれた主要派生ディストリビューション
 - knoppix
 - Xandros (EeePC)
 - Linspire
 - Ubuntu (Dell)

プロプライエタリソフトウェア も良い点があるよ？

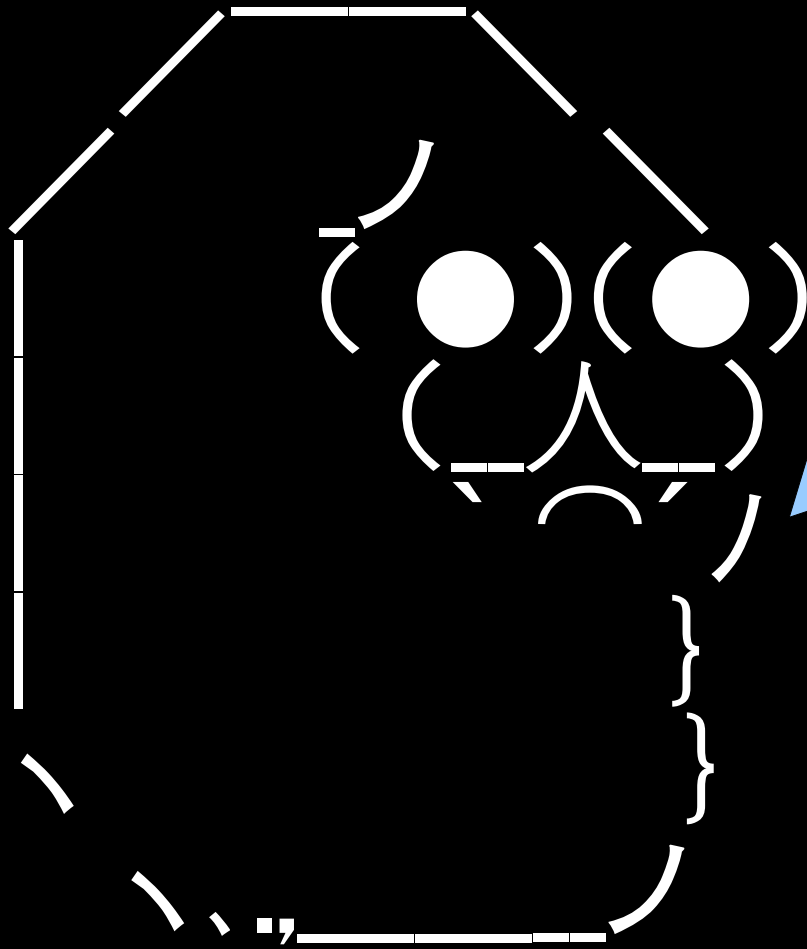
- それは

「提供ベンダの品質／サービスが良い」

なのであって、ソフトウェアのライセンス的に
メリットがあるわけではない

- FLOSS 以外のライセンスは「利用者の自由を制限」するためにある

GPL 汚染？



ビジネス上、ライセンス
があることを理解して
使っていない時点で
法務的にアウトだろ、
常識的に考えて...

GPL 汚染？

- そもそも GPL なコードを使わずにスクラッチで作ればそんなこと言わずに済む
 - プロプライエタリなライセンスだと場合によっては汚染どころの騒ぎじゃない
 - 「金銭的に多額の賠償金」の例がある？
 - GPL 自体は法的に有効だという判例あり（ドイツ）
 - Artistic License も判例が出た（アメリカ）

More RISK?

- 「他のリスクと比較して」 判断せよ
 - GPL ライセンス物へのリンクだけが問題なの？
 - 「景気後退でキャッシュフロー悪化」 リスク
 - 「顧客との契約トラブル」 リスク
 - 「開発者が倒れる／逃げる」 リスク
 - 「他社製品のコードを盗用」 リスク
 - 「特許侵害」 リスク
 - 「セキュリティ侵害」 リスク
 - More and more...

本日のアジェンダ

- オープンソースソフトウェア(OSS)
 - 歴史と成り立ち
 - ライセンスと開発形態
 - 利用者/開発者にとってのFLOSS
- FLOSSの社会的意義



Free/Libre Open Source Software の社会的意義

FLOSSの社会的意義(1)

- 競争状態の創出
 - 独占状態による「収奪」の構造の破壊
- 社会福祉（マスの確保できない分野）
 - 少数民族語圏での母国語サポートなど
 - ゾンカ語版Linux@ブータン
- 私企業一社依存状態のリスク削減
 - 政治的に対立したときどうなる？
 - その企業が破綻したときは？
 - 「選択」の確保

FL0SSの社会的意義(2)

- 人材の適正な流動化
 - 社会全体的な終身雇用は既に破綻
 - 1社依存技術の習得のリスク
 - 社会全体での知識／技術への自由なアクセス

The background features a stylized illustration of blue waves at the bottom, transitioning into a white background with a large, faint red spiral in the upper right corner.

FLOSSの社会的意義 ～経済的側面

インフラストラクチャ整備が 新たな産業創出を生む（1）

- 「電報」「ポケベル」「ケータイ」を考えよう
 - 需要は変わらず、形を変えて産業創出が行われる
 - インフラが整って導入コストが低くなることによる
 - インターネット
 - 家電／携帯電話
 - 企業内部システム（SFA、データマイニング等…）

インフラストラクチャ整備が 新たな産業創出を生む (2)

- 「ちょっと新しいこと」のコストとリスク
 - 顕著な例：Web 企業は何を基盤にしている？
 - スタートアップコストは？
- スタートアップ企業以外にも…
 - 能力があれば「リスクを取って利益を上げる」事が可能
 - ソースへのアクセス、改変の自由
 - ベンダロックイン回避

インフラストラクチャ整備が 新たな産業創出を生む (3)

• 検索エンジン + 広告

- Google (Linux)
- Yahoo! (Linux, FreeBSD)
- Overture (?)

- 小規模 SEO 企業も多く出現

インフラストラクチャ整備が 新たな産業創出を生む (4)

- ネットショップの存在
 - 楽天
 - amazon

インフラストラクチャ整備が 新たな産業創出を生む (5)

- ソーシャルネットワークサービス
 - mixi (perl, mysql, Fedora)
 - gree (php, Debian)
 - Facebook (?)

インフラストラクチャ整備が 新たな産業創出を生む (6)

- ネットオークション

- 某社の一人勝ちの様ですが…

注：ビジネスは FLOSS を使えば良い、ではない

- 企業の利益源泉は「ビジネスがどういう形になっているか」にある
 - 大抵は IT に依存しているわけではない
 - FLOSS によって「変化に強く」はなる
 - ただし丸投げ体質のところは何にも変わらないで沈む

商用ソフトが売れない？

- そもそも売れているソフトウェアベンダは、
極々一部でしかない
 - しかも存続し続けているソフトウェアベンダは
極小数。
 - ビジネスは継続性があることも重要なのでは？

米国でのソフトベンダトップ10 1984年

1984年

1. マイクロプロインターナショナル（年間収入：6000万 ドル）
2. マイクロソフト（年間収入：5500万 ドル）
3. ロータス
4. デジタルリサーチ
5. ビジコープ
6. アシュトン・テイト
7. ピーチツリー
8. マイクロフォーカス
9. ソフトウェアパブリッシング
10. ブロードーバンド

米国でのソフトベンダトップ10

1984年 & 2001年

1984年

1. マイクロプロインターナショナル
(年間収入：6000万 ドル)
2. マイクロソフト
(年間収入：5500万 ドル)
3. ロータス
4. デジタルリサーチ
5. ビジコープ
6. アシュトン・テイト
7. ピーチツリー
8. マイクロフォーカス
9. ソフトウェアパブリッシング
10. ブローダーバンド

2001年

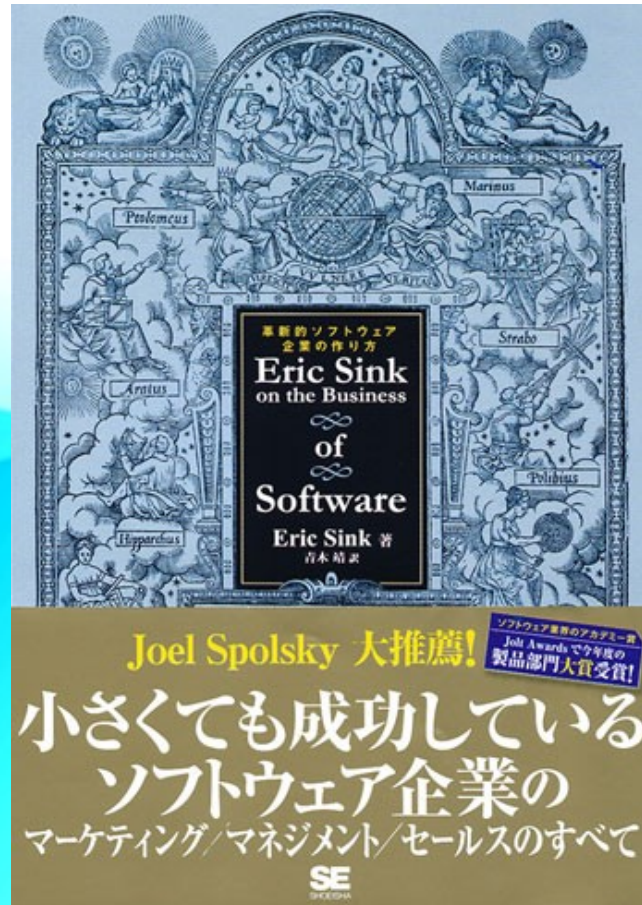
1. マイクロソフト
(年間収入：238億4500万 ドル)
2. アドビ
(年間収入：12億6638万 ドル)
3. ノベル
4. インテュイット
5. オートデスク
6. シマンテック
7. ネットワークアソシエイツ
8. シトリックス
9. マクロメディア
10. グレートプレインズ

出典：「アホでマヌケな米国ハイテク企業」インプレス

商用ソフトは生き残れないの？

- 商用ソフトベンダがこの先生き残れるかは「お金を持っている所にその費用を払うだけの価値があると思わせられるかどうか」にある
 - 商用 = プロプライエタリではない
 - これから商業的に大成功するソフトウェアベンダはおそらく新規には現れない。
 - 自動車産業と一緒に
 - でも、働く人が「成功」するだけの余地はいくらでもある
 - 「Eric Sink on the Business of Software」読んでね

Eric Sink on the Business of Software



Microsoft方面開発者向けソフト (SourceSafe や VisualStudio へのアドオンなど)
で商売をしている著者による小規模ソフトウェアベンダのためのお話

超お勧め

(個人ではDebian使ってるところも評価++)

FLOSSは 商用ソフトの「否定ではない」

- ストールマンも否定していない
- エリック・レイモンドも否定していない
 - 「お金を払うのが嫌いだから」は FLOSS の肯定ではない

The background features a stylized illustration of blue waves at the bottom, transitioning into a white background with a large, faint red spiral in the upper right corner.

FLOSSの社会的意義 ～文明的側面

知の共有＝「巨人の肩に乗る」

- By アイザック・ニュートン
 - 偉大な発見は先人の知識の上に成り立っている
 - 知識が「秘術」であったら？

知の共有で価値は下がる？

- 知識が公開されていても、複雑になればなるほど、専門家の価値は高まる
 - 例：法律と弁護士
 - 例：人体と医者
 - 例：建築物と建築家
- ソフトウェアが様々な場所で使われれば、「専門家」はより必要とされる
 - 通り一遍の上っ面を知っているだけの「自称専門家」は Google さんを使う素人に負ける

The background features a stylized illustration of blue waves at the bottom, transitioning into a white area with a large, hand-drawn red spiral in the upper right corner.

FLOSSの社会的意義 ～現状の課題

知財はどうなるのさ？

- 知財？

- Intellectual Property の訳

- 知的財産権、らしい。

- ソースコード自体、著作権、特許権、コンテンツ、
商標権など…

特許？

- ソフトウェアについて、特許自体で儲けられる所はほとんどない
 - 製造業だとまた別だと思いますが…
 - どちらかというところ「牽制カード」や「クロスライセンス」収益
- 「パテント・トロール」の危険性
 - 社会的なイノベーションの必要性和私企業の利益の衝突例
 - 社会的に、損失と利益を考えて動かないといけない

特許

- 「アルゴリズム」が特許になると…
 - 「カーマーカー特許」…。
 - アイデア自体とその「実装」との間には大きな隔たりがある

特許

- 「アルゴリズム」が特許になると…
 - 「カーマーカー特許」…。
 - アイデア自体とその「実装」との間には大きな隔たりがある
 - 一般に普及するまで投資した企業が特許で脅される
 - 薬品などと違ってソフトウェアの場合は「多大な投資」は不要な場合が多い

コンテンツ

- コンテンツの取扱いは難しい問題…
 - 映像、画像、音楽、ゲーム…
 - 娯楽ものは別の取扱い（フェアユース）が必要かも？
 - 安易な DRM は危険
 - ウォルマートを見よ！
- フリーコンテンツが増えること自体は社会的に利益をもたらす
 - 自由に使える素材が増える
 - Creative Commons

商標？

- まったく別問題
 - レイヤ違いで共存できているのではないかな
 - Linux, Debian も商標登録してます
 - 「防衛」のために取らざるを得なかった…。
 - Mozilla のはまた別問題
 - (商標+ロゴマーク) × 商標ポリシー

本日のアジェンダ

- オープンソースソフトウェア(OSS)
 - 歴史と成り立ち ~ Free software, DFSG から OSD へ
 - ライセンスと開発形態
- 利用者/開発者にとってのFLOSS
- FLOSSの社会的意義
 - 競争状態の創出
 - インフラストラクチャ整備が新たな産業創出を生む
 - 知の共有 = 「巨人の肩に乗る」
 - 知財問題

本日の（強引な）まとめ

- 歴史的にOSSはフリーソフトウェアとDebianの流れの延長線上にある
 - OSS は、元々マーケティング用語である
- オープンソースはライセンスと開発形態の側面から見る事が出来る
 - 既存ライセンス = 良いプロトコル
 - 良いコミュニティ = 自発的な人の集まり
- FLOSS は社会／経済に良い影響を与える
 - 知財問題はまだまだ折り合いを考える必要がある

YOU can make US "Happy"

- 前回OSCで同様のセッションをやった際のBlogでの感想から
 - 「今の仕事でやってるみたいに中身の见えないOSをいじっていると、ソフトウェアの自由ってプログラマの幸せに直接つながるものだって思う」

Happy?

- 開発者の皆さん、あなたは**幸せ**ですか？
- 経営に携わる皆さん、あなたは開発者たちを**幸せ**にしようとしていますか？
 - 「甘やかす」とは違います :-)
 - 利害関係者のうち、社内の人員を冷遇／搾取してない？

Don't label them!!!

- レッテルを貼って思考停止しないように
 - OSSサイコー！で終わり？
 - 既得権益者は悪者、で叩くだけ？



簡単に白黒つけられるものではありません

Think!

What is "Open"?

What is "Free"?

What is "Standard"?

What is "Innovation"?

What is "Commons"?

What is "Property"?

What is "Profit"?

What is "Right"?

What is "Risk"?

What is "HAPPY"?

etc...

to... make OUR Happy Society



Thank you!

Any Questions?

- 最初にお名前をお願いします
- 周りの人に聞こえるようにハッキリ発言ください
- オフレコな話の場合は皆さん心の中にしまっておいてあげてください :-)

参考文献等 (1)

- 「オープンソース・ワールド」
翔泳社, 1999, 川崎和哉
- 「特許ビジネスはどこへ行くのか」
岩波書店, 2002, 今野浩
- 「フリーソフトウェアと自由な社会」
– Richard M. Stallmanエッセイ集
アスキー, 2003, リチャード・ストールマン、訳：長尾高広
- 「アホでマヌケな米国ハイテク企業」
～エクセレント・カンパニーを崩壊に導いた、トホホなマーケティング20年史
インプレス, 2004, メリル R. チャップマン、訳：星睦
- 「Eric Sink on the Business of Software」
翔泳社, 2008, Eric Sink、訳：青木靖

参考文献等 (2)

- 「Open Source Software: the End-User Perspective」
IPA FORUM, TOKYO, 28 October, 2008, Cedric Thomas
- 「ネットジェネレーションの著作権と考え方」
京都メディアフェスティバル, 2008/09/13, のがたじゅん <nogajun@gmail.com>

画像の権利について（1）

- P.5 の自画像 :-) については
「Creative Commons 表示-継承 2.1 日本」
ライセンスにて提供します。
 - See <http://creativecommons.org/licenses/by-sa/2.1/jp/>
- P.10 のリチャード・ストールマン氏の画像は Public Domainにて提供されます。
 - See http://en.wikipedia.org/wiki/Image:Portrait_-_Denmark_DTU_2007-3-31.jpg
- P.80 「Eric Sink on the Business of Software」
の書影画像の権利は株式会社翔泳社様にお問い合わせ下さい

画像の権利について (2)

- P.93 「Writing writing writing...」は Creative Commons Attribution 2.0 Generic ライセンスにて提供されています
 - See <http://www.flickr.com/photos/dbdbrobot/140068142/>
- P.97 「Zebra」は Creative Commons Attribution 2.0 Generic ライセンスにて提供されています
 - See http://www.flickr.com/photos/mape_s/333863114/
- 「Debian Swirl」を含めた背景画像は Debian Open Use Logo License の下で利用可能です。
 - See <http://www.debian.org/logos/index.en.html>

本文章のライセンス

- 引用を除いた文章については「Creative Commons 表示-継承 2.1 日本」ライセンスにて提供します

– See <http://creativecommons.org/licenses/by-sa/2.1/jp/>

